

科目名	補聴器・人工内耳 I			授業の種類	演習	講師名		
授業回数	15 回	時間数	30 時間	1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	ST2年 前期
【授業の目的・ねらい】 補聴器・人工内耳の構造、機能についての知識を身に着ける。 補聴器・人工内耳を用いたリハビリテーションについて理解する。								
【実務者経験】 関西医科大学総合医療センターの耳鼻咽喉科・頭頸部外科にて聴覚検査、平衡機能検査および補聴器を用いたリハビリテーションに従事する。								
【授業全体の内容の概要】 補聴器・人工内耳の基本的な構造と機能を理解し、リハビリテーションへの活用方法を理解する。								
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 難聴者の生活場面における補聴器・人工内耳の機能の活用方法を理解する。								
回数	講義内容						準備物(教材)	
1	補聴器の基本構造について理解できる。						教科書 配布資料	
2	補聴器の種類と特徴について理解できる。						教科書 配布資料	
3	補聴器の音響特性(音響利得)について理解できる。						教科書 配布資料	
4	補聴器の音響特性(最大出力音圧レベル、規準周波数レスポンス)について理解できる。						教科書 配布資料	
5	補聴器の加工について理解できる。						教科書 配布資料	
6	補聴器の機能(マルチチャンネル、ノンリニア増幅)について理解できる。						教科書 配布資料	
7	補聴器の機能(雑音抑制、ハウリング抑制)について理解できる。						教科書 配布資料	
8	成人の補聴器適合について理解できる。						教科書 配布資料	
9	補聴器適合検査について理解できる。						教科書 配布資料	
10	補聴器適合検査の指針の必須検査について理解できる。						教科書 配布資料	
11	乳幼児の補聴器適合について理解できる。						教科書 配布資料	
12	人工内耳の基本構造について理解できる。						教科書 配布資料	
13	人工内耳の適応基準について理解できる。						教科書 配布資料	
14	人工内耳のマッピングについて理解できる。						教科書 配布資料	
15	人工内耳の評価について理解できる。						教科書 配布資料	
定期筆記試験								
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第3版								
【準備学習・時間外学習】 授業前後に予習復習を行う。								
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、 60点以上の場合に科目を認定する。								